

0 理念

進捗状況報告

神学部の理念拡大を目指しキリスト教神学の新たな方向性を模索すべく、年に8-10回開催される「神学研究会」や2007年度大学共同研究「キリスト教的視点からの人間の尊厳と深淵に関する研究」研究会（いずれも神学部教員が中心的役割を果たしている）において、人権研究の深化を含めた新しい試みが行われている。これらの研究会は公開を原則として、「神学研究会」には毎回5-10名の神学部生・大学院生も参加し、活発な議論がなされている。

また、キリスト教思想・文化領域への理念拡大につき、新たな視点からの聖書解釈、また「愛」「平和」といった領域が生まれている。

その一例として、神学部教員がセンター副長をはじめ、主任研究員や研究員を務めているキリスト教と文化研究センターでは、「愛」「平和」といった領域に係る研究をプロジェクトとして指定し、年に数回、公開の研究会を開催している。また、その研究の成果は集約され、著書として具体的なかたちで公にされている。

『愛を考える：キリスト教の視点から』
／平林孝裕 神学部助教授 編著、関西学院大学共同研究「愛の研究」プロジェクト編、2007年3月

『聖書の解釈と正典：開かれた「読み」を目指して』
／水野隆一 神学部教授、嶺重淑 神学部助教授など共著、2007年3月

『キリスト教平和学事典』キリスト教と文化研究センター編、2007年6月現在共同執筆中

新しい神学の研究領域は、同センターと共催での講演会開催においても具現化されている。

「思考停止をやめる！—紛争転換と非暴力で平和を創ろう—」奥本京子氏（大阪女学院大学准教授）、2007年5月 など。

また神学部研究助成制度においては、2006年度に神学部学術奨励基金共同研究制度を設置し、神学部教員を代表者とする共同研究に対する助成を行っている。2006年度の研究は学生用の教材開発として『論文・レポートの書き方』を作成し、学生が自身の研究を進めるにあたって有効なものとなっている。今後この制度を利用し、さらに神学部の理念浸透に寄与する研究がなされることを期待している。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

学部・大学院前期課程6年一貫教育については、日本基督教団所属の伝道者育成に係る教育方針であり、主に日本基督教団または協約を結ぶ教派所属のキリスト教神学・伝道者コース生（ただし、2007年度以前はコース生導入以前の卒業生）を対象としている。

年度	卒業者のうち 教団所属者数	左のうち大学院 前期課程入学者数	割合
2006年度	9名	2名	22.2%
2005年度	9名	4名	44.4%
2004年度	14名	6名	42.9%

※ 教団所属者数には、教団が宣教協約を結んでいる教派に所属する人数も含む。
大学院前期課程入学者数には、学部卒業後1年以上を経た後に進学した者を含まない。

学部卒業者の進路については、2007年度にキリスト教思想・文化コース生の一期生が卒業するのを契機として、2006年度より学部独自の進路希望調査や進路把握に努めるなど、その対応を強化している。

大学院前期課程における収容定員超過の問題については、その主な要因が社会人や他領域からの入学生の修了に3年を要することにあると認識している。2008年度前期課程カリキュラム再編において神学基礎科目群を設置し、2年間で修了できるような仕組みに整えた。

学内第三者評価

キリスト教の伝道者を育成するという伝統的目標を堅持しながら、現代的問題に対応して幅広くキリスト教と関連した分野で活躍できる人材を育成するために、旧来の枠組みを改善しようとする取り組みは評価できる。それが「キリスト教神学・伝道者コース」と「キリスト教思想・文化コース」の2コース制であるが、課題も見受けられる。

大学院進学率が漸減傾向（66.7%(2002)、39.1%(2003)、26.9%(2004)）にあること、学部卒業者の相当数が進路不明の「その他」に分類されていること、修士課程の定員超過率が大きいこと、などである。「人口爆発と食糧危機」「環境変化と将来への不安」など数多くの現代的問題に直面して、神学部に期待される人材育成像も変わりつつあると思われる。自己評価を通読して改革への真摯な姿勢が一貫しているという印象を深くするが、今後、一層の努力が期待される。

また、二つのコースと領域の関係や、両コースの在籍者数とその推移、入学後のコース間の移動の可能性や有無などについて自己点検・評価報告書の記述だけではやや不明確であり、受験生や社会に対して分かりやすい説明がなされるよう望まれる。

なお、特別委員からは以下の意見があった。

- ・「キリスト教」に関する自己点検評価は誠実に厳しく行われている。
- ・人権研究など社会の要請に応えた真面目な取り組みが行なわれ、設定された目的は達成されてきている。
- ・関学における神学部というユニークな存在が他学部の学生にもインパクトを与えるような存在であってほしい。たとえば、神学研究会で「年間3万人を超える自殺者をどう考えるか」、「他宗教とどこがちがうのか」といった時事問題との関連など一般的なテーマを取り上げれば、全学的な関心をよび、関学の理念達成への貢献が一層高められるのではないか。